

VとW (山中伸弥)

校長 桐野 和之

皆さんは、日頃の学習や生活、部活動に取り組んでいるときに、どんなことに気を付けて頑張っていますか。うまくいったとき、成功したとき、成果を上げたときはどういうことに気がついていましたか。そのようなときは、それぞれがさまざまな努力をして取り組んでできていることでしょう。



ところで、皆さんには将来の夢や目標があると思います。あるいは現時点ではなくてもやがてもつことがあると思います。それを実現するために大切な言葉があるので紹介します。それはVとWのことです。

これは、iPS細胞の研究で2012年にノーベル生理学・医学賞を受賞された京都大学iPS細胞研究所所長の山中伸弥教授の言葉です。

山中教授は、2006年にマウスのiPS細胞、2007年にはヒトのiPS細胞の作製の成功を報告しています。iPS細胞は日本語で、人工多能性幹細胞といいます。iPS細胞は大きく分けて「再生医療」と「創薬」の二つの分野で人類に多大な貢献をするものです。iPS細胞の作製技術は山中教授をはじめとして多くの人の努力によって生み出されました。

VとWは、山中教授が1993年にアメリカのサンフランシスコのグラッドストーン研究所で、当時の研究所の所長ロバート・メーリー先生から教わった言葉だそうです。

あるとき、メーリー先生は、研究所に在籍する人を集め「VとWが大切だ。研究者として成功する秘訣はVWだ。VWさえ実行すれば、君たちは必ず成功する。研究者にとってだけでなく、人生にとっても大切なのはVW。VWは魔法の言葉だ」と話されたそうです。Vは「Vision」、Wは「Work Hard」です。この意味は「目的をはっきりともち、それに向かって懸命に働く」という意味です。

日本人は「Work Hard」は得意で、夜遅くまで働く人、土日でも働く人が日本には大勢います。しかし、いつのまにか目的を見失い、何のために働いているのか分からない状態に陥ってしまう。山中教授自身にもそういう自覚があったので、メーリー先生のVとWの教えが心に響いたそうです。そして、日本人にとって不得意な「Vision」を育てたい、それには教育が大切であると強調されています。

今、世界はグローバル化が進んできています。皆さんが成長し、社会に出て活躍する頃には、ますますグローバル化や情報化が進むと思います。どのような分野に進むにしても、常に世界を意識して仕事をする時代に皆さんは活躍するのです。ですから、皆さんには、自分の夢や希望を叶えるためにも、そして、これからのグローバル化社会のなかで、世界で活躍する人となるためにも、ぜひとも「Vision」と「Work Hard」の意味するところを考え、実行してほしいと思います。そのためにも、まずは、自分で考えることと自分でアイディアを出すことを心がけましょう。どうしたらできるようになるのか、指示待ちではなく、常に自分で考える習慣を身につけてほしいと思います。そして、そのうえで、目的をはっきりともち、それを実現するために懸命に努力し続けてほしいと思います。がんばってください。

頑張ろう

安倍首相の全国の公立学校への臨時休業要請からすでに二ヶ月半の時間が過ぎようとしています。それを考えると呆然としてしまいます。卒業していった生徒たちはどうしただろう。今の2、3年生はどうしている。そしてほとんど会うことができていない1年生は。考えれば考えるほど気になってしまいます。



卒業式は何とかできました。でも入学式は・・・前日の教職員の入学式打ち合わせも終わり、あとは式を待つばかりとなった段階で延期連絡。こんな事は今までの教職員生活で誰も経験していません。でも頑張るしかないのです。生徒の皆さん、課題に取り組んでいますか。家に居ることが多いと思いますが、どうしようもないイライラする感じや時があるのではないですか。でも気持ちを前向きにするしかないのです。頑張しましょう。不要不急の外出を避けるのは大切な「命」を守るためです。これ以上大切なものがないのです。だから頑張しましょう。ぜひ、このような時だからチャレンジしてほしいことがあります。それは、新聞や好きな本を読むこと。そして、気になったことや感想、考えたことをぜひ書き留めて、どうして自分はそれが気になったのかをまとめてみてください。時間に余裕がある今ならできるのではないですか。今号では気になった新聞記事や本の内容をいくつか紹介します。参考にしてみてください。

連戦一休み じっくり底上げ(朝日新聞)

国際大会が次々と中止になっていた3月、卓球の代表選手たちは驚くほど前向きだった。

「私にとっては悪いことじゃないかな。しっかりやり込んだ練習ができる」と27歳のベテラン、石川佳純(全農)。20歳の平野美宇(日本生命)も「(試合がない)期間が長いと、新しいことに挑戦しやすい」。

ポジティブになれる背景には、従来のスケジュールであればオフシーズンがほぼなかったという、卓球特有の事情がある。コロナ禍で生まれた空白は、石川が「こんなに試合がないのははじめてかも」とかたるほどだ。

世界中を転戦する「ワールドツアー」は1月に開幕し、12月まで連戦に次ぐ連戦。これに出続けないと、五輪出場権にかかわる世界ランキングが維持しにくい。さらに合間に世界選手権や全日本選手権、ワールドカップ(W杯)、Tリーグ、賞金大会などがあり、昨年20以上の国際大会に参戦した石川は「朝起きて、どの国にいるんだっけ?っていうことが何度かありました」と苦笑する。試合が続けば、実力を底上げするための練習は難しい。石川は「『できるまでやり込む』っていうじっくりした練習が今まで難しかった」。

日本勢は東京五輪のメダル有力候補には違いない。だが、中国勢が飛び抜けているというのが実情だ。2020年夏も、王者との差を埋められないまま迎える可能性が高かった。実戦感覚が鈍るのは痛い。過去にないほどじっくりと練習に打ち込める異例の時間は遠かった中国との距離を詰める好機でもある。

例えば昨秋、伊藤美誠(スターツ)が約1ヶ月にわたって大会に出場せず、練習に専念したことがあった。「本当に、すごく充実していた」。思い切った調整が奏功。この時期を境に飛躍し、初の五輪シングルススキップを手に入れている。

平野が言う。「試合ばかりでできなかったことにどんどんチャレンジして、幅を広げたい。去年は『ここはできるけど、ここは時間がない』って時があったけど、全体的に

レベルアップできるチャンス。

(延期となった東京五輪ですが、空白の時に上手に利用しようとしている選手の姿勢が大変いいなと思いました。ピンチをチャンスに変えていると思います。)

編集手帳(読売新聞)

エベレストの頂上は、2畳ほどの広さしかないという。その地を目前に、冒険家の植村直己さんは7歳年上の松浦輝夫さんに「先に行ってください」と先頭を譲ろうした。◆最後は「一緒に行こう」と、並んで頂上に立つ。『戦後50年につぼみの軌跡<上>』(読売新聞編集局)にある。酸素が薄い標高8848メートルの極限状態でも互いを思いやる気持ちに心打たれる。ちょうど50年前の5月11日、2人は日本人初のエベレスト登頂に成功した。◆そこから見下ろした世界は今、新型コロナウイルスの流行で極限状態に近い。気になるのは、国同士の思いやりの欠如だ。マスクなどの医療物資を囲い込んだり、食料輸出を制限したり◆ウィルスの発生源を巡る米中の論争も激しい。検証は必要だが、もっと大事なことがある。各国の知見を集めてウィルスを封じ込め、ワクチンや治療薬を開発することだ。感染症との闘いを覇権争いにすり替えてはならない。◆経済活動の再開に動く国も相次ぐ。新たな感染者数を示すグラフが、下り坂にさしかかったためだろう。でも油断は禁物。登山では上りよりも下りの方が難しいと聞く。

(冒険家、植村直己さんを思い出したこと。感染者数が例え減ったとしても、登山に倣いながら油断は禁物であると言っていることがなるほどと思いました。)



常識なのに！大人も答えられない都道府県のギモン(本より)

Qなぜ米の生産量上位の都道府県は日本海側に多いの？

- ① 新潟県 627,000トン
- ② 北海道 514,800トン
- ③ 秋田県 491,100トン
- ④ 山形県 374,100トン
- ⑤ 宮城県 371,400トン

資料：『日本国勢図絵2019／2020』より2018年米生産量



米の生産量日本一は新潟県。コシヒカリの産地としても有名です。ちなみに、2017年の世界の米の生産量は、中国、インド、インドネシアの順。気温が高くて雨が多く、なおかつ水がたまりやすい大きな川の下流などに広がる平野での栽培が盛んです。しかし、日本の場合は、北海道や東北地方といった、寒い地域が上位に入ります。これは寒い地域でもつくりることができるように品種改良が行われたことや米の栽培技術が進歩したためです。

A「雪どけ水」がたっぷり使えるから

米の生産量を見ると1位の新潟県、3位の秋田県、4位の山形県と、上位には日本海側の都道府県が多く入っています。これはなぜでしょうか？理由はいろいろありますが、そのひとつが「雪どけ水」です。米を栽培するときは、水がたくさん必要ですよ。日本海側に位置する新潟県、秋田県、山形県などは、冬になると山間部を中心に雪がたくさん積もります。それが春になるとだんだんととけ、「雪どけ水」として川に流れ込みます。この「雪どけ水」が米づくりに必要な農業用水となるのです。ですから、日本海

側はほかの地域に比べ米の栽培に必要な水に恵まれているというわけなんです。また、山から流れてきた雪どけ水には、山の落ち葉などがつくった栄養分もたくさん含まれています。この雪どけ水をたっぷり使って米を栽培するので、おいしいお米が



たくさんできるのですね。

Q どうして日本海側には雪がたくさん降るの？

冬になると日本には、ユーラシア大陸のほうから季節風という風が吹いてきます。冬になるとよく、「北風」という言葉を聞きますか？この「北風」も、季節風のことなんです。

地図を見ると、ちょうど日本の冬では北(北西)のほうから風が吹いてきます。この、シベリアのほうから吹いてくる季節風は、もともと乾燥した風なのですが、日本海の上を通過するときに、日本海からの水蒸気を含みます。そのたね、乾いた風だったのが水蒸気を多く含んだ湿った風に変わります。そして、この風が水蒸気を含んだまま日本列島を南北に走る山脈にぶつかることで雪雲ができ、日本海側の地域に多くの雪をもたらすのです。

Q どうして千葉県の銚子漁港が日本一の水揚げ量なの？

日本一水揚げ量の多い港は千葉県の銚子港です。続いて2位が静岡県焼津港、3位が北海道の釧路港です。

銚子港の沖合には、水深の浅い「大陸棚」が広がっています。さらに、銚子港から東北地方の三陸海岸にかけての沖合は、北から流れてくる寒流の親潮(千島海流)と、南から流れてくる暖流の黒潮(日本海流)がぶつかり合う「潮目」となっています。ここでは、海の底から栄養豊富な海水が湧き上がり、魚のエサとなるプランクトンが多く発生するため、親潮や黒潮にのって、たくさんの種類の魚が集まってきます。

銚子港の水揚げ量で主力であるサバは近年の健康ブームが追い風となり需要が拡大しています。サバ以外にも、イワシやサンマが多く水揚げされています。

(何気なく読んだ本に、大変わかりやすい日本の気候風土、農業のようすが記されていたことに感銘すら受けました。)

新型コロナウイルス対策(朝日新聞)



この内容も新聞からの抜粋です。

Q 新型コロナウイルスはどのように感染しますか。

A くしゃみやせきで出るしぶきを、近くの人が吸い込む「飛沫感染」と感染した人から手にウィルスがついたままドアノブや手すりなどを触り、そこから他人にうつる「接触感染」が主なルートです。ただこれにあてはまらない感染経路もあり、感染を拡大させているケースがあります。

Q どういうことですか。

A 飛沫はある程度の重さがあり、通常は2メートルほどの範囲で地面に落ちます。一方、新型コロナは、飛沫より小さな粒の「エアロゾル(エーロゾル)」に含まれて空気中を漂い、より広い範囲で感染が起きる可能性があります。さらに、くしゃみだけでなく、会話や歌でも感染を広げるリスクが指摘されています。

Q どうすれば感染を防げますか。

A 中国の研究グループの最近の研究論文では、他人への感染は発症2～3日前から始まり、ピークは発症直前でした。健康な人が気づかずに感染を広げる可能性を考えておく必要があります。まずは、せきエチケットやこまめな手洗い、他人との2メートルほどの距離をとることが大切です。

(今学校では、学校再開に向けて主事さん方がドアノブ、手すり等を毎日拭いてくれています。共感。)